

# 令和3年度 第1回 宇都宮市民大学運営協議会

日 時 令和3年4月22日（木）  
午後3時30分～4時30分  
会 場 人材かがやきセンター研修室  
（宇都宮市中央生涯学習センター5階）

## 次 第

### 1 開 会

### 2 議 題

- (1) 宇都宮市民大学運営協議会役員を選出について（会長）
- (2) 令和2年度宇都宮市民大学事業報告について・・・資料1
- (3) 令和2年度宇都宮市民大学収支決算について・・・資料2
- (4) 令和3年度宇都宮市民大学事業計画（案）について・・・資料3
- (5) 令和3年度宇都宮市民大学収支予算（案）について・・・資料4

### 3 その他

### 4 閉 会

## 宇都宮市民大学運営協議会委員名簿

任期：宇都宮市民大学運営協議会運営要領第4条の規定による期間  
(令和2年9月1日～令和4年8月31日)

令和3年4月1日現在

No.	氏名	所属団体等役職
◇ 1	あかばね ゆきお 赤羽 幸雄	とちぎボランティアNPOセンターぽ・ぽ・ら センター長
2	あべ ゆり 阿部 ゆり	株式会社下野新聞社 編集局総務部長
3	えだ そういち 江田 壮一	宇都宮短期大学 事務局長
4	おおやま しんいち 大山 眞一	宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ
5	かわしま やすお 川島 育郎	株式会社栃木放送 報道制作局長
6	しばた しんじ 柴田 慎司	帝京大学 宇都宮キャンパス 事務長 【新委員】
7	しまだ しげお 島田 繁雄	宇都宮メディア・アーツ専門学校 校長
◇ 8	のなか まさと 野中 正知	公益財団法人 とちぎ未来づくり財団 事務局長
9	まちやま たえこ 待山 妙子	宇都宮市生涯学習センター運営審議会 委員
○ 10	まるやま じゅんいち 丸山 純一	宇都宮市民大学講座企画運営選考委員 文星芸術大学 副学長

◎ 会長      ○ 副会長      ◇ 監事

## 宇都宮市民大学運営協議会運営要領

適用 平成 4年5月1日  
平成12年7月1日  
平成14年9月1日  
平成16年4月1日  
平成22年4月1日  
平成22年9月1日  
平成26年9月1日  
平成27年4月1日

(趣旨)

第1条 この要領は、宇都宮市民大学実施要綱（以下「要綱」という。）第4条第4項に規定する宇都宮市民大学運営協議会（以下「協議会」という。）の運営について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 協議会は、宇都宮市民大学に関し次の各号に掲げる事務を行う。

- (1) 講座の企画の承認に関する事
- (2) 運営に関する事
- (3) 予算及び決算の承認に関する事
- (4) 市内高等教育機関との共催事業に関する事
- (5) その他必要と認める事項

(組織)

第3条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから要綱第4条第2項に規定する学長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 生涯学習関係者
- (3) 宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ

3 協議会は、専門講座の企画運営の選考をさせるため、宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会を設置することができる。

4 第2項の委員のうち1名は、宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会委員を兼ねるものとする。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長1人を置き、委員がこれを互選する。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の半数以上の者が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

4 会長が必要であると認めるときは、協議会の委員以外の者の出席を求めることができる。

5 前項に定める出席を求められた者は、議事の決定に加わることはできない。

(監査)

第7条 協議会に監事2人を置き、会長がこれを指名する。

2 監事は、協議会の会計を監査する。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、要綱第4条第5項に規定する事務局（教育委員会事務局生涯学習課）が処理する。

(補則)

第9条 この要領に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

## 令和 2 年度宇都宮市民大学事業報告について

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため前期専門講座は中止とした。後期専門講座については、令和 2 年 10 月 26 日（月）～12 月 21 日（月）で実施し、受講者数は 224 名（前年△438 名）、修了者は 205 名（前年△413 名）、修了率 91.5%（前年△1.9%）となった。

公開講座については、多くの市民が集まる講演会の開催は中止し、代替事業として、とちぎテレビによる特別番組を放映した。

### 1 専門講座

「別紙 1」のとおり

### 2 特別企画（公開講座代替事業）

「別紙 2」のとおり

### 3 総評と課題

■前期専門講座は、中止となったが、募集定員 310 名のところ 430 名の受講希望申込があり企画については好評であった。⇒令和 3 年度で実施予定。

■後期専門講座は、全体の定員を上回る受講希望申込があり、コロナ禍での実施であったにもかかわらず、受講者の専門講座の修了率は全体で 91.5%、受講者アンケートにおいても成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答が全体の 87.4%と、例年と同水準の満足度の高い講座を実施することができた。

■後期専門講座の実施にあたっては、下記のとおり感染症対策を実施し、安心して受講できる環境を整えることができた。

#### ① 密集・密接の回避

- ・受講料の集金方法を見直し（初回現金納付⇒ゆうちょ銀行での振込納付）
- ・受付の無人化（初回は受講決定通知、2 回目以降は受講証を受付箱へ提出）
- ・受講定員を一律 30 名に減らし、人と人との距離を確保 等

#### ② 換気

- ・講義中でも 30 分に 1 度の換気（入口の開放）
- ・窓を閉め切らないよう調整 等

#### ③ 受講生への協力依頼

- ・マスクの着用及び当日朝の検温等によるセルフチェック
- ・研修室入口前での職員による検温 等

■今後も、収束の見えない感染症問題に配慮しながら、市民の知的好奇心を満たすため、個人の要望に基づく趣味・教養的な学びを提供するとともに、幅広い学習内容での実施に向け、現代的な課題や旬の話題を積極的に講座に取り入れることにより受講者満足度の向上を図る。また、公開講座を活用し更なる新規受講者の獲得に努める。

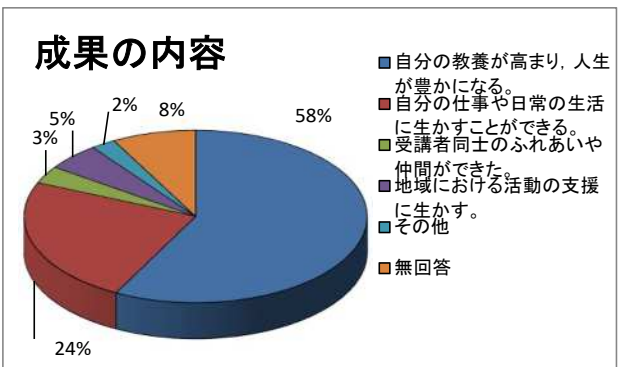
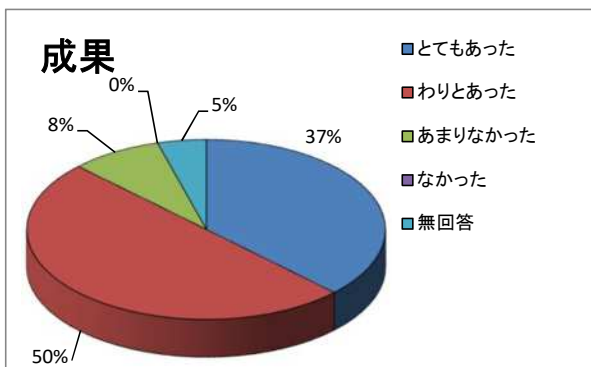
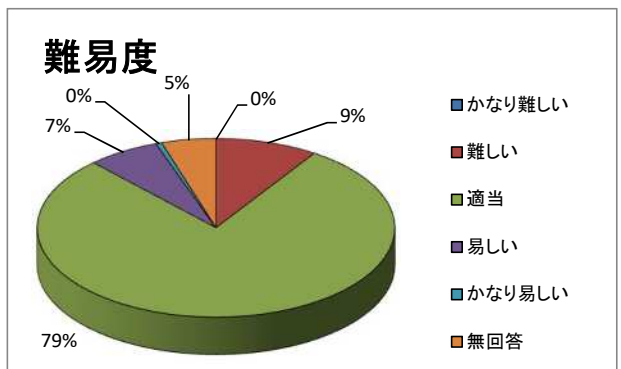
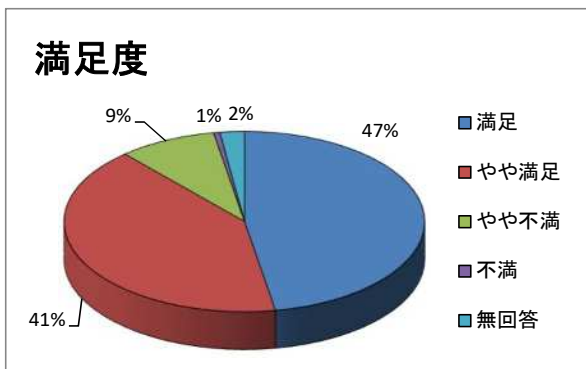
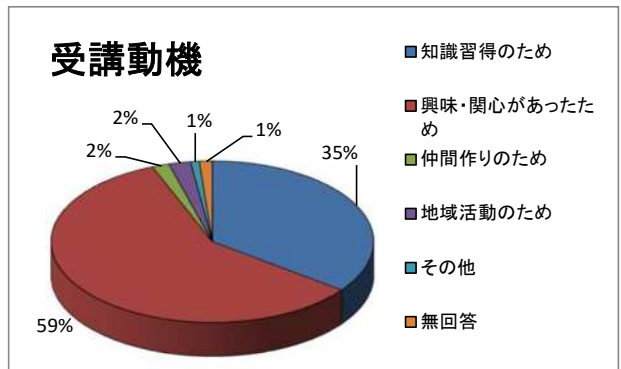
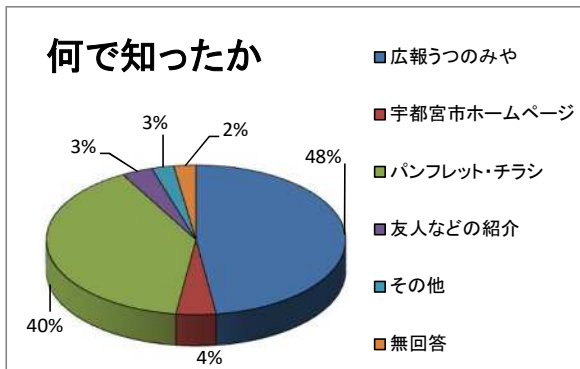
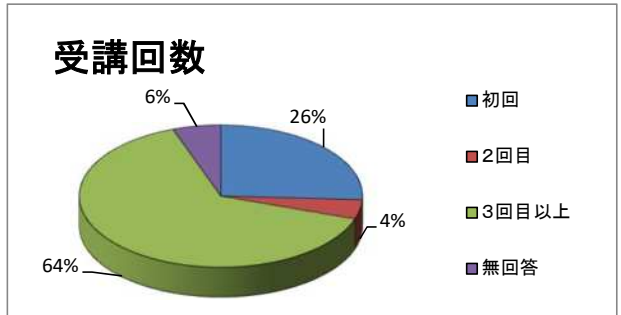
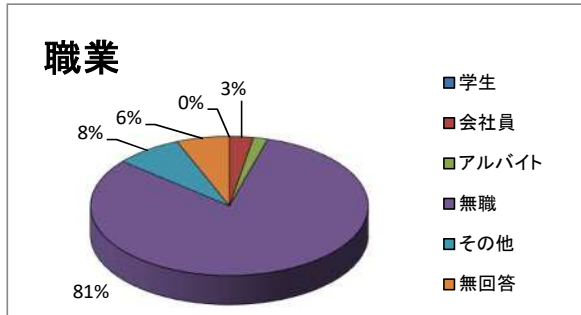
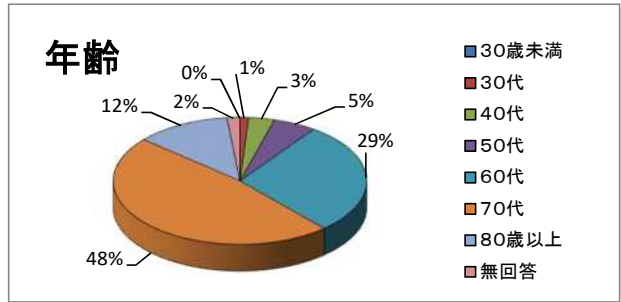
宇都宮市民大学(後期講座)の実施状況について

コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講者数	修了者数 (修了率)	講座の評価	(参考)受講者の感想・意見
I	天皇家と栃木県民と自然 ～栃木県の自然を愛される歴代天皇のお姿～  (全7回)	足利大学工学部・共通教育センター 講師 大沼 美雄 栃木県立博物館 特別研究員 星 直斗 日光国立公園那須平成の森フィールドセンター長 若林 正浩 那須・塩原郷土史家 臼井 祥朗 宮内庁御料牧場 場長 菊池 淳志	10/26～ 12/14	(30) [83] 44	43 (97.7%)	定員を上回る受講申込があり、天皇家への関心の高さがうかがえた。講師が持参した資料(実録や官報、研究記録の内容を転記したもの)をもとに、県内所在の御用邸の沿革や、歴代天皇がどのように御用邸を御利用されたのかについて学ぶことができた。講師が天皇家との関わりが深い方々だったので、資料からわかること以外の話も聞くことができ、受講生にとって大変満足度の高い講座となった。また、受講生は天皇家と栃木県との関わりを学んだことで、皇室の方々の願いを未来にどう繋げていくのかを考える機会となった。	・天皇家と栃木県がとても深く関わっていることが良く分かって、大変勉強になった。 ・近代の天皇・皇室の歴史や人間性など、今まで知らなかったことを学ぶことができた。 ・皇室関係の事は知らされていないことが多いので、色々聞いて楽しかった。 ・他県から引っ越してきたので、栃木県と天皇家や御用邸に興味があった。コロナ収束後に訪ね歩きたいと思う。 ・地元において、天皇家と栃木県がこんなにも深く繋がっていることは知らなかった。ぜひ、訪ねてみたいと思う。
I	大谷石のことをもっと知ろう ～石の街「うつのみや」であるために～  (全7回)	宇都宮市教育委員会事務局文化課 主幹 今平 利幸 宇都宮市文化財保護審議委員会 委員長 橋本 澄朗 委員 大嶽 浩良 宇都宮美術館 専門学芸員 橋本 優子 大谷石石材協同組合 理事長 石下 光良 NPO法人大谷石研究会 理事長 塩田 潔 株式会社テイクス設計事務所 代表取締役 武井 貴志	10/29～ 12/10	(30) [40] 39	36 (92.3%)	平成30年に日本文化遺産として認定された「大谷石文化」について、歴史や文化的側面はもとより、最新の採掘技術や運搬方法の変遷、建築資材としての大谷石など多様な視点から学んだ。大谷石の文化を古代から紐解き、大谷地域が古代からいかに重要な地域であったかを展開し、ふるさとへの誇りを醸成するものだった。全体を通して、「大谷石文化」が日本遺産に認定されたストーリーを理解し、身近な大谷石の知識を深める事で、ふるさとの魅力を再発見する機会となり、受講生にとって満足度の高い講座になった。	・大谷石の文化や歴史をわかりやすく学べて大変参考になった。 ・大谷巡りをする視点で受講したが、発見がいっぱいあった。 ・宇都宮の街全体を「大谷石」のイメージで街づくりができたらしいと思った。 ・帝国ホテル建設の話に大変興味を持ち、関連本を読んで学んだ。 ・大谷石文化を後世に伝えるため、文献のみならず「モノ」の保存が重要であると感じた。
II	現代社会を読み解く知識と考え方 ～日々の暮らしをより豊かにするコツ～  (全6回) [作新学院大学・女子短期大学部連携講座]	作新学院大学女子短期大学部 教授 西田 直樹 准教授 小林 育斗 准教授 中川 仁美 准教授 木村 雅史 特任講師 石川 順章	10/26～ 12/7	(30) [58] 42	37 (88.1%)	日々の暮らしをより豊かにするコツを、具体的な資料やデータから読み解く講座で、身近なテーマから選ばれた内容は、すぐに役立つものが多くあった。コロナ禍で在宅時間が長い現在、その場で、タオル1本で簡単にできる体操や、身体活動強度の指標(メッツ)の説明は、今後の体力維持・向上への動機づけになった。「地域における居場所づくり」では、コミュニティカフェや高齢者サロンの実践例などの紹介もあり、話し合いは大いに盛り上がった。受講生の今後の社会活動の広がりにつながる学びになった。	・お金に対する考え方、お金を「かける」「かかる」が参考になった。 ・「居場所づくり」は今後の考え方として大変良かった。 ・多くの人と関わり、いろんな話の中から必要な情報を取り入れていく必要があると思った。 ・今さらと思いましたが、講座を受講して納得し、深く心に残るものがあった。 ・体力づくりの内容は今後の生活改善に大いに役立つ講座だった。 ・全般的に焦点がはっきりしない講座だった。
II	マンガと日本人 ～マンガ媒体の発展・人の心を動かすメカニズム～  (全6回) [文星芸術大学連携講座]	文星芸術大学 マンガ専攻 教授 堀江 一郎	10/30～ 12/11	(30) [24] 21	20 (95.2%)	日本マンガの歴史をたどり、マンガからテレビアニメ、映画へと媒体を変え、日本のマンガが世界的に受け入れられるようになった経緯や、今日の日本マンガの隆盛とこれからの課題などにも言及し、わかりやすい内容だった。情熱的な講義と編集者として関わった講師にしか知りえないマンガ家の逸話なども披露し、マンガに興味のある受講生にとって満足度の高い講座となった。講義終了後には、講師を囲んで文星芸術大学での公開講座の開催を要望する姿も見受けられ、今後の学びへの発展が期待できるものとなった。	・ビジネスマンの視点からも興味深く聞いた。オンライン受講でより多くの人に届けてもらいたい。 ・熱意ある先生の指導が素晴らしい。現在の活力あるマンガ文化の勢いがそのまま伝わった。 ・とても楽しく、ためになる講座だった。知らないことを知ることが豊かに生きる事だと思った。第2弾、第3弾を期待する。 ・マンガ好きな息子にも教えてあげたい。 ・マンガやアニメを見る視点が変わった。趣味仲間ができた。
III	日本遺産「かさましこ」の世界 ～笠間焼・益子焼を極める～  (全7回)	益子町副町長・益子陶芸美術館長 横田 清泰 茨城県陶芸美術館 副主任学芸員 飯田 将吾 学芸員 芦刈 歩 笠間焼伝統工芸士・陶芸家 額賀 章夫 栃木県産業技術センター窯業技術支援センター 主任研究員 塚本 準一 益子陶芸美術館 学芸員 松崎 裕子 陶芸家 岩見 晋介	10/29～ 12/10	(30) [35] 32	28 (87.5%)	かつて笠間と益子が宇都宮氏の領地であり、同じ文化圏であったことから「兄弟産地」として今回の日本遺産認定に至った経緯に始まり、陶芸美術館の学芸員からは両産地の焼物の歴史や作品の特徴、両産地を代表する陶芸作家の映像を見ながら詳しい説明があった。また、現役の陶芸家からは、海外展開など高度成長期とは違う視点も必要になった現状が語られ、経済と切り離せない産業としての側面についても学ぶ機会となった。受講生からは講座終了後訪れることを楽しみにしたいとの声があり、さらに深い学びに繋がる講座となった。	・日本遺産にはストーリーがあると知った。 ・Web販売、ネット情報が作家の生き残りに重要なことを知った。 ・笠間焼と益子焼の歴史について、理解することができた。 ・窯業界の厳しい現状を知った。 ・益子・笠間の歴史を系統立てて知る事ができた。この2つの産地がどこに向かおうとしているかの説明が物足りなかった。 ・濱田庄司が益子を持ち上げたのではなく、益子の気質が濱田を魅了し、我々を引き付けていると思った。
III	不朽の名作には秘密がいっぱい ～あなたの知ってる西洋美術の世界?～  (全6回)	文星芸術大学 名誉教授 小林 利延	10/30～ 12/11	(30) [93] 46	41 (89.1%)	定員を上回る受講申込があり、絵画への関心の高さがうかがえた。多くの人々が一度は目にしたことのある名画について、歴史と画家の一生の視点から学ぶ講座であった。講師が録画・編集した映像と、最新の研究結果を基にした講義により西洋美術について詳しくない方でも学習内容を理解しやすかったと思われる。一方で、映像の視聴時間が長かったことから、西洋美術の知識を持っている人にとっては、多少物足りなさを感じた可能性がある。西洋美術を鑑賞する際に参考になる知識を得ることができ、今後の学びに繋がる有意義な講座となった。	・説明とともに画像が拝見でき、わかりやすかった。 ・心が豊かになった。知識を持って観る楽しみを知ることができた。 ・大学の授業を受けているようで楽しかった。 ・DVDによる説明も理解を深めるのに大きな成果があったと感じているが、先生の説明がもう少し欲しかった。 ・視点を変えて絵画を観るのも楽しいと思った。 ・あまり興味がなかったが、色々な絵画に触れて、多くのことを知ることができた。
【コース名】 I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る教養コース			募集定員	180人	【総合的な評価】 新型コロナウイルス感染防止の観点から前期専門講座は中止となったが、後期専門講座については、3密を回避するなど各種の感染防止策を講じ実施することができた。コロナ対策のため、定員を30名に減らすも、6講座中5講座は定員を超える申込みがあり、キャンセルを見込むなど可能な限り定員を増やし受講決定をした。 コロナ禍ではあったが、各講座とも欠席者やキャンセルは少なく修了率は例年と同水準の91.5%となった。各講座とも受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容であったことから、満足度の高い講座提供ができたと推察される。		
			応募者数	333人			
			受講者数	224人			
			修了者数	205人			
			修了率(修了者/受講者)	91.5%	【今後の課題】 コロナ禍でも安心して受講できる環境整備等の検討。		

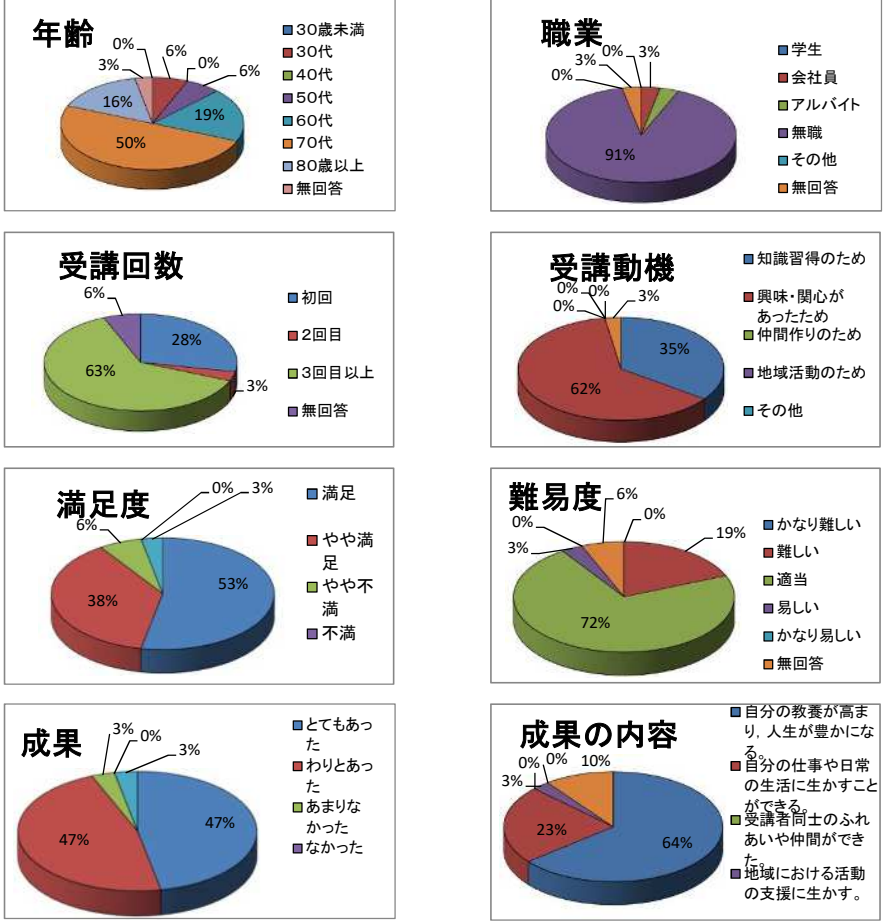
※修了者数は、4分の3以上の出席者

令和2年度宇都宮市民大学後期講座アンケート

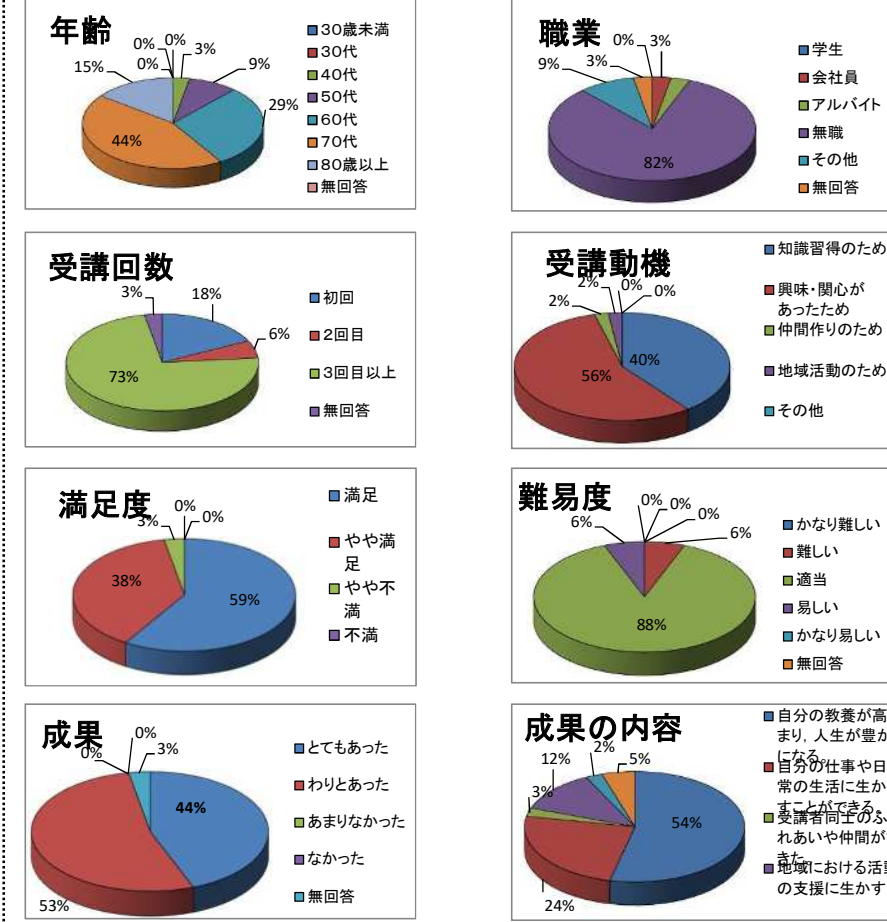
1 受講者数	224 名
2 アンケート回答数	182 名
3 アンケート回収率	81.3 %



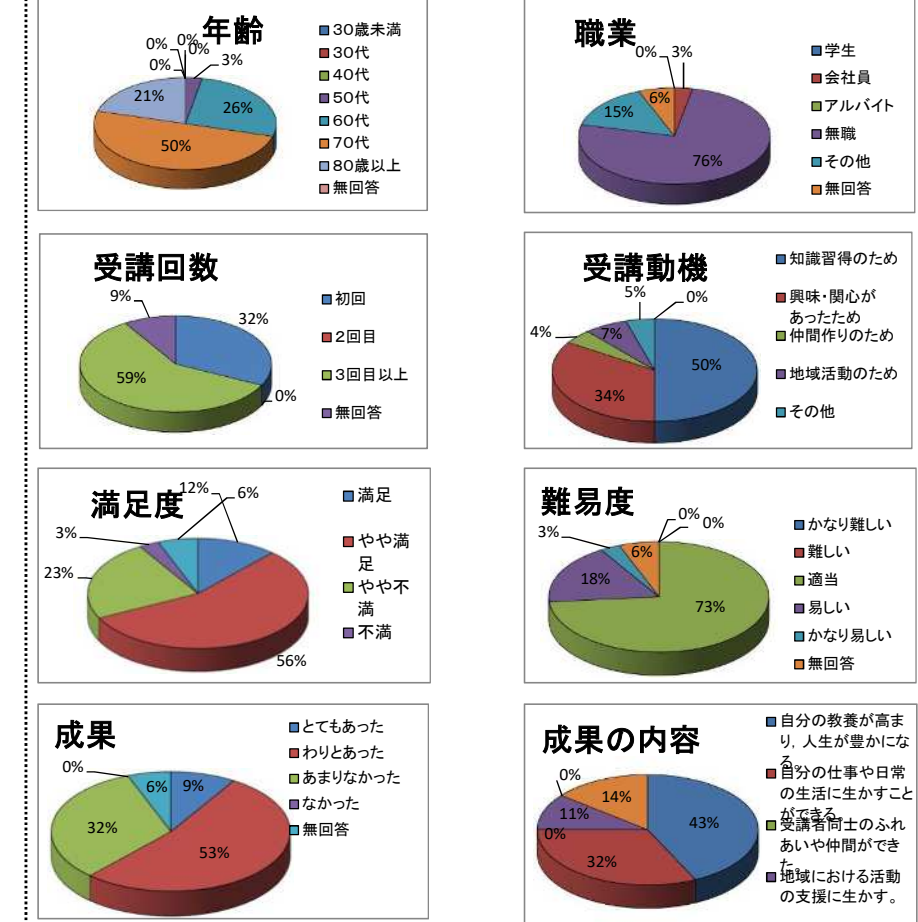
① 天皇家と栃木県民と自然



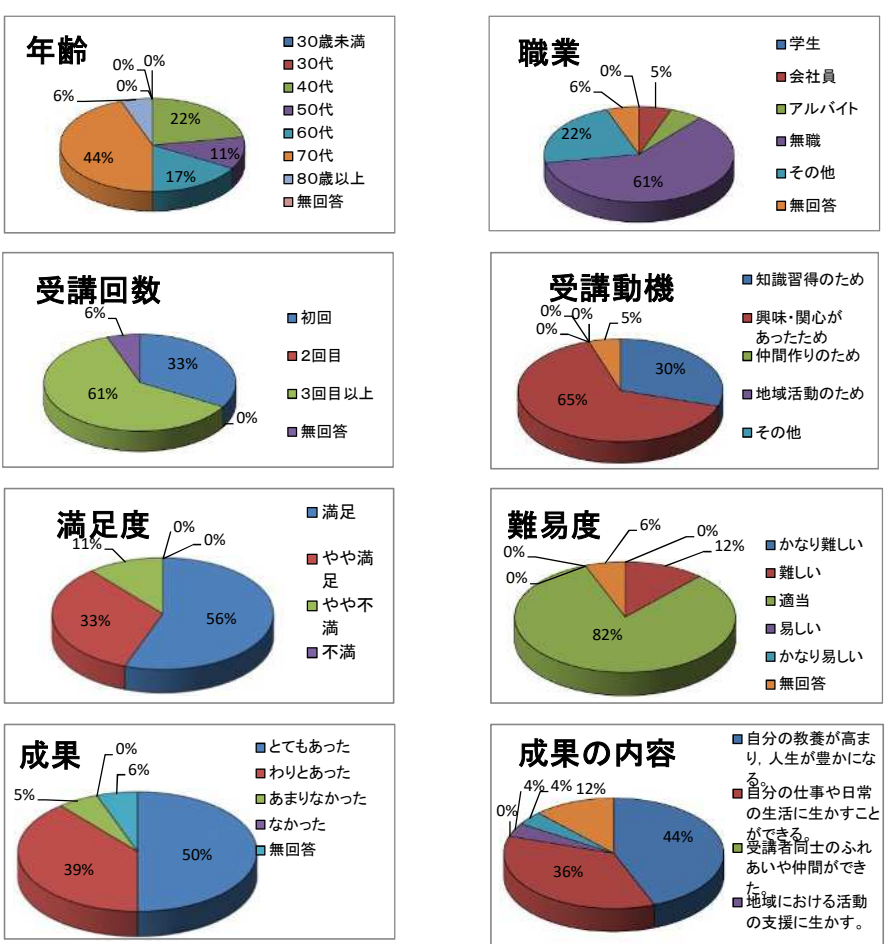
② 大谷石のことをもっと知ろう



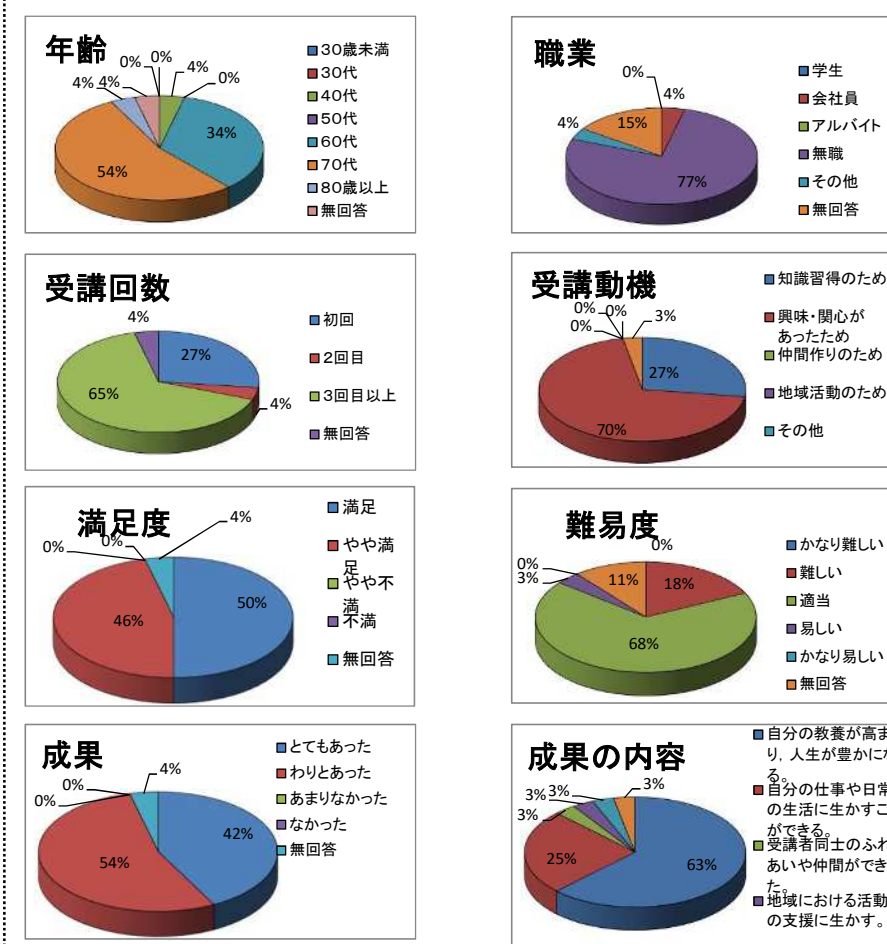
③ 現代社会を読み解く知識と考え方【作新学院大学連携】



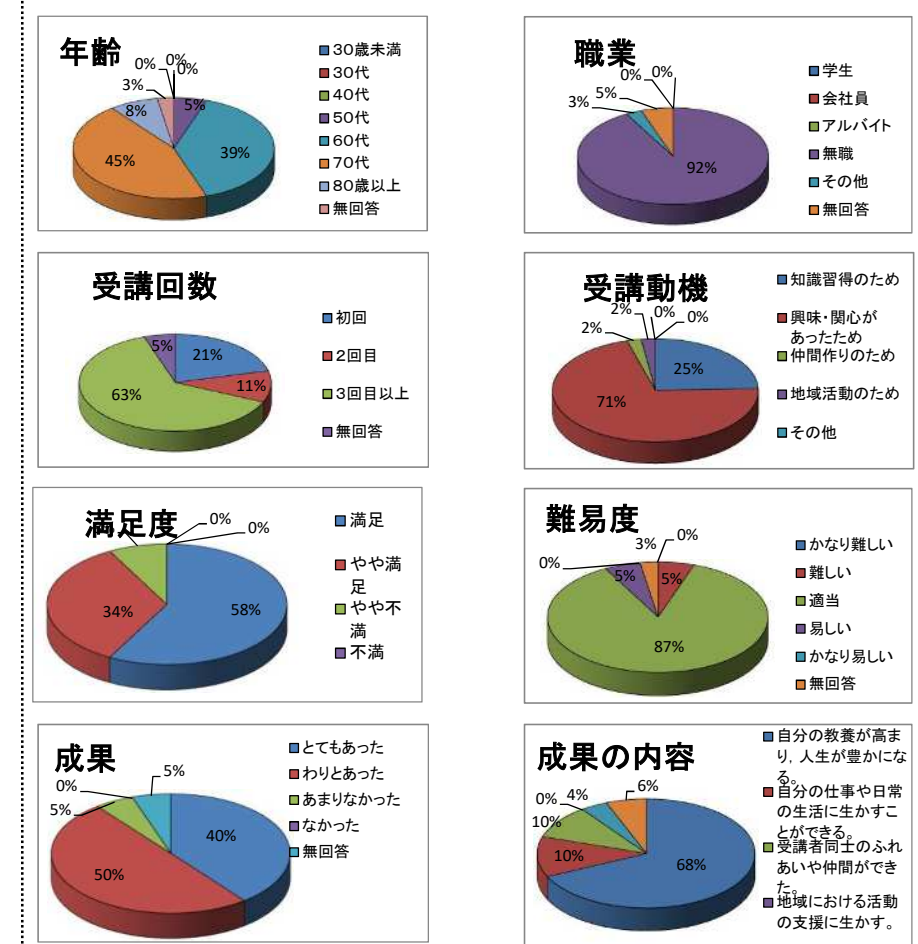
④ マンガと日本人【文星芸術大学連携】



⑤ 日本遺産「かさましこ」の世界



⑥ 不朽の名作には秘密がいっぱい





とちぎテレビ 宇都宮市民大学 特別企画  
「東日本大震災から10年 あの日、僕は・・・」番組放映について

◎趣旨 とちぎテレビ 宇都宮市民大学 特別企画番組の放映について報告するもの

1 「とちぎテレビ宇都宮市民大学特別企画」について

(1) 経緯

当初は、「宇都宮市民大学公開講座『東日本大震災から10年を迎えて』」として、令和3年3月6日(土)にフリーアナウンサー笠井信輔氏による講演会(定員500名)を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、多くの市民が集まる講演会の開催は中止し、代替事業として、とちぎテレビによる特別番組を放映することとした。

(2) 番組概要

番組名称 とちぎテレビ 宇都宮市民大学 特別企画  
「東日本大震災から10年 あの日、僕は・・・」  
放送日時 令和3年3月10日(水) 20:00~21:00  
※東日本大震災から10年となる3月11日の前夜に放送  
※再放送 3月14日(日) 20:00~21:00  
出演者 笠井 信輔氏(フリーアナウンサー/元フジテレビアナウンサー)  
篠田 和之氏(MC)  
番組内容 東日本大震災発生直後から被災地に赴き、被災地の状況を伝え続けてきた笠井氏へのインタビュー



東日本大震災から10年  
～3.11これからも～

とちぎテレビ 宇都宮市民大学 特別企画  
『東日本大震災から10年 あの日、僕は…』

放送 3月10日 水 20:00～21:00  
(再放送) 3月14日 日 20:00～21:00

出演 笠井 信輔(フリーアナウンサー)・篠田 和之(MC)

未曾有の被害をもたらした東日本大震災…「3.11」から10年。被災直後、現地からのリポートを続けた元フジテレビアナウンサー・笠井信輔さんが出演。当時の記憶を忘れることなく、県民に、後世に。「伝える」とは何か?『命』とは『防災』とは何か?お話をうかがいます。

(とちぎテレビ番組ガイド3月号)

2 事業の評価について

- ・ 代替事業となったが、より多くの市民に市民大学を周知できる機会となった。
- ・ 震災から10年という節目に、貴重な学びの機会を提供することができた。



**市民大学 特別企画 に寄せられた声**

・東日本大震災の現場を鮮明に伝えていただき、当時の痛みや苦しさをありありと思い出しました。これからの防災への備えについて、具体的に携帯電話や充電のことを示されたのはとても良かったです。自分自身について省みる機会になりました。(30代)

・とても感動しました。栃木県に津波はないからと油断せずに、様々な災害に備えなければならぬと、認識を新たにしました。父にスマホを教えます。(40代)

・災害についての向き合い方の心構えを学ぶことができました。高齢になっても使えるものは広げていきたいと思いました。これからの時代は防災・減災を学ぶ機会が必要だと思います。(60代)

・1時間でしたが、もっと笠井さんの話を聞きたかったです。講座に申し込んでいたので中止になって残念でしたが別な形でお話を聞くことになりましたが聞いてよかったです。直接お会いしたかったです。直接頑張っている姿見たかったです。(40代)

・感動しました。もしもの時の災害対策、まず自分たちでできることから始めたいと思います。(スマホの使い方、充電器の準備等)そして次世代の子どもたちへの伝承も大切なことだと痛感いたしました。(60代)

・素晴らしい企画でした。1時間ではもったいないと思いました。被災地の写真や実際に現場で取材された笠井さんのお話。震災について何となく分かっているつもりでいた自分が大間違いである事に気付かされました。のびる小の避難場所での出来事の話など涙が出ました。もしもの際に、自分や家族を守るには?家族だけでなく地域の人と助け合うには?1000人規模の避難所を自分達で運営するには?正直わかりません。今後、市民大学の講座でいかがでしょうか?講座でなくとも自治会や行政の取組として勉強や仕組みづくりをしていく必要があると感じました。公開講座、コロナ禍で開催されるのか?開催されても行こうかどうか心配していましたが、こうした形で貴重なお話を聞いて(観れて)、大変有り難く思いました。これ県内全部で観れるなんて、宇都宮市は素晴らしい。栃テレありがとう。是非多くの人に観ていただきたいと思いました。(40代)

・笠井さんは東日本大震災後の東松島の航空自衛隊隊員にインタビューし、泣きながら話を聞いていたのが印象的でした。会場でお元気になった姿を拝見したかったので、講演会がこのような形であっても開催されたことは嬉しかったです。テレビで流すような、きれいな、感動するお話かと思っていましたが、画像や映像がなくてもあつという間に人が死んでしまう自然災害の凄惨さや無情さが伝わる話しぶりに、何度も泣きながら拝見しました。私の実家は宮城県で、10年前の津波で床上1.5m浸水になりました。本当は3月12日に子供たちを連れて実家に帰省する予定でいて、荷造りをしようと思っていた矢先の大地震でした。もし発震が24時間遅かったら私は死んでいたかもしれません。津波では近所の幼稚園も保育所も、近所の人も、本当に何人もの犠牲者が出ました。何度亡くなった人の分まで生きようと思っても何もできずに自分が嫌いになる10年間でした。この放送で笠井さんに自分の気持ちを話していただいたようで気持ちに区切りがつきました。ありがとうございました。(40代)

・取材をしたリアルな情報が良かった。保育士が体育館で命の選択を迫られた話は、普段テレビで語られないので興味深かった。実際の震災はこういう、生々しい話があり、テレビで映る編集された映像では恐怖や悲惨さが伝わりにくい気がした。こういう、生の話や、編集されていない映像が、これからの防災意識や人との接し方にも良い影響を与えると思う。私も、震災から10年経って意識が薄れていた気がする。被災された方はもちろん、人は矛盾を抱えながらも強く生きている。負の部分から目をそらそうとしがちだけど、それも含め、後世に伝えていかなきゃいけないと思った。講演会で聞けなかったのは残念だが、内容はとても良かった。(30代)

## 令和 2 年度宇都宮市民大学収支決算書

## 収入の部

宇都宮市民大学運営協議会(単位:円)

款	項	当初予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	摘要
1 交付金	1 市交付金	1,811,000	1,811,000	0	宇都宮市より
2 受講料	1 受講料	1,750,000	729,500	△ 1,020,500	前期専門講座, 公開講座中止
3 雑収入	1 雑収入	1,000	9	△ 991	預金利子
合計		3,562,000	2,540,509	△ 1,021,491	

## 支出の部

(単位:円)

款	項目	当初予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	摘要
1 総務費		364,000	187,595	△ 176,405	
	1 報償費	332,000	182,800	△ 149,200	委員謝金,パンフレットデザイン謝金
	2 需用費	12,000	1,055	△ 10,945	会議茶代
	3 役務費	20,000	3,740	△ 16,260	委員振込み手数料
2 事業費		3,198,000	2,352,914	△ 845,086	
	1 報償費	1,738,000	965,460	△ 772,540	講座講師謝金,手話通訳者謝金,交通費
	2 需用費	738,000	576,920	△ 161,080	
	(①消耗品費等)	368,000	238,302	△ 129,698	講座紙代等
	(②食糧費)	11,000	1,468	△ 9,532	講師茶代
	(③印刷製本費)	309,000	337,150	28,150	受講者証,パンフレット作成,公開講座チラシ・ポスター作成等
	(④修繕料)	50,000	0	△ 50,000	
	3 役務費	194,000	219,892	25,892	
	(①通信運搬費)	167,000	191,182	24,182	募集パンフレット郵送料,公開講座中止通知,返金通知等
	(②手数料)	27,000	28,710	1,710	講師謝金振込手数料,返金のための定額小為替購入手数料等
	5 使用料	168,000	51,570	△ 116,430	公開講座施設使用料
	6 負担金,補助及び交付金	360,000	539,072	179,072	専門講座企画運営費 とちぎテレビ番組制作協力費等
合計		3,562,000	2,540,509	△ 1,021,491	

決算収入額	2,540,509 円
決算支出額	2,540,509 円
差引	0 円

## 監 査 報 告 書


宇都宮市民大学運営協議会設置要領第7条第2項の規定に基づき、同協議会の収支決算について、関係諸帳簿及び証拠書類等を監査しましたところ、いずれも適正であり、決算書のとおり相違ないことを認めます。

宇都宮市民大学運営協議会

会長 川本 清 様


令和 3 年 3 月 31 日

監 事

赤羽 幸雄 

令和 3 年 3 月 31 日

監 事

野中正知 

## 令和3年度宇都宮市民大学事業計画（案）について

## 1 令和3年度事業の考え方

市民大学事業については、本市の社会教育分野における基本計画である「第3次宇都宮市地域教育推進計画」に基づき、高等教育機関との連携による高度で専門的な学習ニーズに応えるとともに、「生涯学習センター主催講座」や「人材かがやきセンター主催講座」との差別化を図り、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座として、心豊かに市民生活を送るための教養講座や、郷土愛を育む地域の文化・歴史講座など、市民の知的好奇心を満たし、生きがいや精神的な豊かさなど市民生活に潤いを与える学習機会の提供に重点的に取り組む。

令和3年度事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった令和2年度前期専門講座を、特例として令和3年度市民大学で実施する。また、特に郷土愛や地域理解を促進するため専門コースの一部再整理を行い幅広い学習内容で展開することで、受講者満足度の向上を図る。

なお、新型コロナウイルス感染症の終息の見込みが見えないことから、感染拡大には十分に配慮し「新しい生活様式」を取り入れ受講環境の安全を図る。

## 【新型コロナウイルス感染防止対策】

- ・定員を各30名に減らし実施する。
- ・定員を減らすことで、市民の学習の機会が損なわれることがないように、前期・後期それぞれ1講座増やし、前期7講座、後期7講座の14講座を実施する。
- ・託児及びバスでの移動を伴う館外学習は行わない。

## 2 前期専門講座

表1のとおり、講座企画・運営ボランティアスタッフ（Vスタッフ）企画講座を6講座、宇都宮共和大学による連携講座1講座を実施する。

【表1】前期専門講座一覧（参考）

No.	講座名（開講数）	講師
1	I 郷土を愛する「宇都宮学」コース【新設】 名城に名将有り！下野の古城 ～館から城郭へ、中世の城の役割～（全8回）	宇都宮短期大学 人間福祉学科 教授 江田 郁夫 氏ほか
2	II 今を読み解く現代社会コース 栃木県のはやり病・伝染病・感染症 ～近世末から近現代の感染症を振り返る～ （全7回）	栃木県医師会70年史編纂委員会 顧問 大嶽 浩良 氏ほか
3	II 今を読み解く現代社会コース これからの長寿・共生・循環型の社会を生きる ために 【宇都宮共和大学連携講座】（全6回）	宇都宮共和大学 シティライフ学部 教授 内藤 英二 氏ほか

4	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース 信長・秀吉・家康 ～戦国三大カリスマの知られざる実像～ (全7回)	共立女子大学 文芸学部 教授 堀 新 氏ほか
5	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース 仏像の魅力を探る (全5回)	文星芸術大学 総合造形専攻 准教授 大澤 慶子 氏
6	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース ロマンとミステリー 前方後円墳の魅力 ～3世紀から6世紀に造られた約20万基の古墳群の謎に迫る～ (全8回)	新潟大学 名誉教授 橋本 博文 氏ほか
7	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース 再入門！たのしい科学 ～予想し実験で確かめる！これであなとも科学者になれる～ (全7回)	仮説実験授業研究会 全国代表委員 湯澤 光男 氏

### 3 後期専門講座

表2のとおり、講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座を6講座、大学連携講座【帝京大学】を1講座実施する。

なお、会場である中央生涯学習センターの改修工事により11月より利用中止になることから、例年より1ヵ月前倒し、8月に募集を行い、9月開講とする。

ア 開催期間 令和3年9月～令和3年10月

イ 開催回数 未定

【表2】後期専門講座一覧

No.	講座名
1	宇都宮を流れる鬼怒川の昔と今 (郷土を愛する「宇都宮学」コース)
2	栃木の疫病にまつわる民俗 (郷土を愛する「宇都宮学」コース)
3	シニア世代の「こころ」と人間関係 (今を読み解く現代社会コース)
4	どうやって生まれた？動物たちのスゴ技 (暮らしを彩る文化・教養コース)
5	ここが変わる！日本の縄文時代 (暮らしを彩る文化・教養コース)
6	鬼先生の間探検講座 (暮らしを彩る文化・教養コース)
7	【帝京大学連携講座】(タイトル未定) (コース未定)



#### 4 公開講座について

市民大学の更なる周知及び認知の向上を図るため、公開講座は著名な講師を迎え、独立した講座として年1回実施する。

(1) 実施日 令和4年2月19日(土)【予定】

(2) 会場 市文化会館小ホール【予定】

(3) 実施内容 各分野の第一人者(著名人等)による講義等

※講師について

・知名度の高い講師を招聘するため予算は30万円程度

・講師選定については次回以降の運営協議会にて協議

(4) 受講料 1,000円【予定】



## 令和3年度宇都宮市民大学収支予算書（案）について

## 収入の部

宇都宮市民大学運営協議会(単位:円)

款	項	本年度予算額	前年度当初予算額	比較増減	摘要
1 交付金	1 市交付金	1,811,000	1,811,000	0	宇都宮市より
2 受講料	1 受講料	2,220,000	1,750,000	470,000	前年度予算⇒前期専門講座中止によるもの
3 雑収入	1 雑収入	1,000	1,000	0	預金利子
合 計		4,032,000	3,562,000	470,000	

## 支出の部

(単位:円)

款	項目	本年度予算額	前年度当初予算額	比較増減	摘要
1 総務費		331,000	364,000	△ 33,000	
	1 報償費	303,000	332,000	△ 29,000	委員謝金
	2 需用費	6,000	12,000	△ 6,000	協議会飲み物代
	3 役務費	22,000	20,000	2,000	開催通知郵送料, 委員報酬振込手数料
2 事業費		3,701,000	3,198,000	503,000	
	1 報償費	2,622,000	1,738,000	884,000	講座講師謝金, 交通費
	2 需用費	450,000	738,000	△ 288,000	
	(①消耗品費等)	173,000	368,000	△ 195,000	講座紙代, 衛生用品代等
	(②食糧費)	10,000	11,000	△ 1,000	講師茶代等
	(③印刷製本費)	257,000	309,000	△ 52,000	パンフレット, 受講者証作成, 公開講座チケット印刷代
	(④修繕料)	10,000	50,000	△ 40,000	機器修繕料
	3 役務費	259,000	194,000	65,000	
	(①通信運搬費)	232,000	167,000	65,000	募集パンフレット郵送料等
	(②手数料)	27,000	27,000	0	講師謝金振込手数料等
	5 使用料	70,000	168,000	△ 98,000	公開講座会場使用料等
	6 負担金, 補助 及び交付金	300,000	360,000	△ 60,000	専門講座企画運営費
合 計		4,032,000	3,562,000	470,000	